

回復初期の問題を解決するガイドブック アルコール、薬物、ギャンブルの回復施設に配布 「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」が発行

全日遊連の第三者団体「ばちんこ依存問題相談機関リカバリーサポート・ネットワーク」(RSN、西

村直之代表)が、アルコール、薬物、ギャンブルなどの依存から回復していく初期段階で起こり得る問題

策」の第2刷を発行した。同書はA5判46ページの小冊子で、昨年6月1日に初版1000部を、今年7月1日に同様に1000部を発行した。配布先(無料)は全国のアルコール・薬物・ギャンブル依存等の回復施設や相互援助グループ(あるいは個人)が主で、あとは「援助施設(精神科医、消費生活相談員、司法書士)らたち(有料)。



RSN発行の「リカバリーサポートガイドブック」

に対して、実体験を基に解決へのアドバイスをしていく。また、新しいガイドブック「回復していく過程で起こる問題についての対応と対策」

「回復していく過程で起こる問題についての対応と対策」の企画はスタートしました。実際に

にどんなことで困っているのか、そしてどのように対処していったのかを、全国の相互援助グループの仲間アンケートやインタビューで協力いただき、今回このような書籍となりました」と書かれている。つまり、依存問題から回復するために、回復施設や相互援助グループを利用して回復への道を歩み始めた人たちに、回復の過程で困る共通の事柄について、私の場合はどういうふうな解決した(あるいは解決中)と、同じ問題を体験してきた先輩たちがアドバイスしている書で、一つのテーマが1ページで完結している。

初版は数十団体に配布されたが「仲間へ渡したいので100冊送ってほしい」などの声が多数寄せられ、あつという間に在庫切れ。さらに「施設の仲間同士で読み合わせをしている」「刑務所へのメッセージ活動のときに使っている」とかギャンブル、アルコール、薬物が原因の受刑者らの需要に、まだ足りない」と増刷されたもの。

内容は生活編、出会い編、トラブル編、お仕事編の4項目。たとえば生活編の1ページ目は「料理酒やみりんは使ってる?」というタイトルで、何のことか最初から戸惑われるが「料理酒は使っていません。飲んでしまえばみりん風を使うようにしています。(8年)」「カッコ内の数字はやめてからの年数」など7人の回答があり、アルコール依存だった人たちの回答であることが分かる。

「イテアア：歯が痛い。虫歯か?」というタイトルの回答は「痛み止めは飲まずに歯医者へ行く。自分はアデイクト(中毒)であることを説明して痛み止めはもらわない」「11年」などの3件で、これは薬物依存。

「仲間がスリッパした!&借金頼まれた!」の回答は「金を貸すことは自殺の手伝いをするようなものだ」と自覚してからは「金だけは貸せない」と断っている。(12年)など10件で、これにはパチンコ依存の人たちも入りそう。

そのほかにも異性問題、年末年始や仕事で休みの日の過ごし方、職場の人に過去を聞かれたらどう答えればいいのかなど、依存問題を抱えた人たちならではの困り事と対処方法が一杯。表紙と中面のイラストは西村代表が描いた。